

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成27年12月17日(2015.12.17)

【公開番号】特開2013-226405(P2013-226405A)
 【公開日】平成25年11月7日(2013.11.7)
 【年通号数】公開・登録公報2013-061
 【出願番号】特願2013-65091(P2013-65091)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 1 5 Z

【手続補正書】

【提出日】平成27年8月24日(2015.8.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技球の始動口への入球に起因して抽出された乱数に基づき大当り抽選を行なう主制御装置と、該主制御装置からの通知をもとに複数の演出の中から表示する演出を選択するサブ制御装置と、該サブ制御装置からの指令に基づいて音を発するスピーカとを備える弾球遊技機であって、

前記主制御装置は、

前記乱数を複数記憶可能な保留記憶手段と、

該保留記憶手段に記憶された前記乱数を参照して前記大当り抽選を行なう抽選手段と、

前記大当り抽選が行なわれる前に、前記保留記憶手段に記憶された前記乱数を参照して、該乱数が特定値か否かを示す先読み判定結果を前記サブ制御装置に送信する先読み結果送信手段と、

前記保留記憶の発生および消化に関する情報を含む保留情報を前記サブ制御装置に送信する保留情報送信手段と、を備え、

前記サブ制御装置は、

前記保留情報に基づき、保留記憶の数に対応する数の保留図柄を表示装置に表示する保留図柄表示手段を備え、

前記保留図柄は信頼度(前記保留図柄表示手段により前記表示装置に表示された際に該保留図柄に係る前記乱数に基づく前記大当り抽選が当選する確率)が異なるものが複数種類存在する弾球遊技機において、

前記サブ制御装置は、

前記保留図柄表示手段により前記表示装置に表示される前記保留図柄を、該表示中に前記信頼度が異なる別の保留図柄に変化させる変化演出を行なうか否かを判定する変化演出判定手段と、

前記保留記憶が発生した旨を示す前記保留情報を受信すると、保留図柄表示音を前記スピーカから発する保留図柄表示音発生手段と、

を備えたものであり、

前記保留図柄表示手段は、前記変化演出判定手段により前記変化演出を行なうと判定された場合には、前記信頼度を示す前記保留図柄である最終図柄を表示するに先んじて、該

最終図柄とは異なる信頼度の前記保留図柄である一時図柄を表示するものであり、

前記保留図柄表示音は複数種類存在し、前記保留図柄表示音発生手段は、該複数種類の前記保留図柄表示音の中より選択された前記保留図柄表示音を前記保留図柄が新たに表示されるのに同期して前記スピーカから発するものであり、前記保留図柄表示手段によって表示された保留図柄が同じであっても前記保留図柄表示音発生手段によって前記スピーカより発せられる前記保留図柄表示音の違いにより、前記変化演出が行われる割合が異り、

さらに、前記保留図柄が新たに表示されても前記保留図柄表示音が前記スピーカから発生されない場合を設け、当該保留図柄表示音が前記スピーカより発生されなかった保留図柄であっても前記変化演出が行われる場合があるように設定するとともに、前記保留図柄が新たに表示された際に、前記スピーカより発せられる前記保留図柄表示音の中には、前記保留図柄が新たに表示された際に、前記保留図柄表示音が前記スピーカより発生されなかった場合よりも前記変化演出が行われる確率が高い前記保留図柄表示音を設けていることを特徴とする弾球遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

上記課題を解決するためになされた請求項1記載の本発明は、遊技球の始動口への入球に起因して抽出された乱数に基づき大当り抽選を行なう主制御装置と、該主制御装置からの通知をもとに複数の演出の中から表示する演出を選択するサブ制御装置と、該サブ制御装置からの指令に基づいて音を発するスピーカとを備える弾球遊技機であって、前記主制御装置は、前記乱数を複数記憶可能な保留記憶手段と、該保留記憶手段に記憶された前記乱数を参照して前記大当り抽選を行なう抽選手段と、前記大当り抽選が行なわれる前に、前記保留記憶手段に記憶された前記乱数を参照して、該乱数が特定値か否かを示す先読み判定結果を前記サブ制御装置に送信する先読み結果送信手段と、前記保留記憶の発生および消化に関する情報を含む保留情報を前記サブ制御装置に送信する保留情報送信手段と、を備え、前記サブ制御装置は、前記保留情報に基づき、保留記憶の数に対応する数の保留図柄を表示装置に表示する保留図柄表示手段を備え、前記保留図柄は信頼度（前記保留図柄表示手段により前記表示装置に表示された際に該保留図柄に係る前記乱数に基づく前記大当り抽選が当選する確率）が異なるものが複数種類存在する弾球遊技機において、前記サブ制御装置は、前記保留図柄表示手段により前記表示装置に表示される前記保留図柄を、該表示中に前記信頼度が異なる別の保留図柄に変化させる変化演出を行なうか否かを判定する変化演出判定手段と、前記保留記憶が発生した旨を示す前記保留情報を受信すると、保留図柄表示音を前記スピーカから発する保留図柄表示音発生手段と、を備えたものであり、前記保留図柄表示手段は、前記変化演出判定手段により前記変化演出を行なうと判定された場合には、前記信頼度を示す前記保留図柄である最終図柄を表示するに先んじて、該最終図柄とは異なる信頼度の前記保留図柄である一時図柄を表示するものであり、前記保留図柄表示音は複数種類存在し、前記保留図柄表示音発生手段は、該複数種類の前記保留図柄表示音の中より選択された前記保留図柄表示音を前記保留図柄が新たに表示されるのに同期して前記スピーカから発するものであり、前記保留図柄表示手段によって表示された保留図柄が同じであっても前記保留図柄表示音発生手段によって前記スピーカより発せられる前記保留図柄表示音の違いにより、前記変化演出が行われる割合が異なり、さらに、前記保留図柄が新たに表示されても前記保留図柄表示音が前記スピーカから発生されない場合を設け、当該保留図柄表示音が前記スピーカより発生されなかった保留図柄であっても前記変化演出が行われる場合があるように設定するとともに、前記保留図柄が新たに表示された際に、前記スピーカより発せられる前記保留図柄表示音の中には、前記保留図柄が新たに表示された際に、前記保留図柄表示音が前記スピーカより発生されなかった場合よりも前記変化演出が行われる確率が高い前記保留図柄表示音を設けていることを

特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

本発明の第3参考例は、請求項1、第1参考例、および第2参考例のいずれかに記載の弾球遊技機において、前記保留図柄表示音発生手段は、少なくとも2種類の音量にて前記保留図柄表示音を発生可能なものであり、前記保留図柄表示音として前記少なくとも2種類の内の大きな音量で発生させるか小さな音量で発生させるかを判定する保留図柄表示音判定手段と、該保留図柄表示音判定手段により小さな音量にて前記保留図柄表示音を発生させると判定された場合には、前記保留図柄表示音発生手段により前記スピーカから発せられる前記保留図柄表示音を、前記少なくとも2種類の音量の内の小さな音量で発生させるものであり、前記変化演出が行なわれる場合であっても、前記保留図柄表示音を、前記少なくとも2種類の内の小さな音量で発生させる場合があることを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

請求項1のように構成された遊技機によれば、たとえ信頼度の低い保留図柄が表示されても、変化演出が行なわれる割合が高い保留図柄表示音を遊技者が聞くと、「信頼度の高い保留図柄に変化するかもしれない」と期待することができる。このように保留図柄が変化するのを待つだけではなく、しかも保留図柄表示音の違いにより様々な面白みを付加することができる。

なお、特許文献2の[0151]には、「表示態様の変化に加え効果音及び可動役物の動作を組合せることによって更に好適な状態となる。」旨が記載されているが、この効果音は保留図柄の変化に対して発せられるもの、すなわち変化したことに対する演出あるいは変化の報知のために発せられるものであるので、保留図柄表示音のように保留図柄が変化することを予告する効果はなく、まして変化の可能性の大小を遊技者に報知することもできない。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】削除

【補正の内容】